

池田市民記者が行く!

市民が池田市の魅力をレポートする
“市民記者”として、地元・池田の
情報を発信します。

今月の市民記者
米津 榮次郎さん



広報誌で池田を伝えて今年で17年目。「何か社会に恩返しできたら」と話す、御歳89歳。地球温暖化についての科学的知見を集約し、国際的に広める「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の報告書伝達にも参加。

取材先

如来寺住職 釈徹宗さん

感染症〜三つの顔に注意して

コロナ禍で当たり前の日常が難しい中、時代や世相を写す鏡である悩みは絶えません。今回はNHKテレビの悩み相談「護国寺」に、タレントの清水ミチコさんと共に出演されている僧侶の釈徹宗さんを紹介します。

釈さんは、創建360年以上の如来寺(古江町58)第19代住職で、相愛大学副学長兼人文学部教授、宗教学者、認知症グループホーム(特非)リライフ代表と多彩に活躍されています。宗教の思想や文化について調査し、涙骨賞をはじめさまざまな賞を受賞しています。著作は枚挙にいとまがなく、近著には「天才富永仲基」が有名です。普段は、お寺の住職を務めながら大阪市内の大学教授として勤務しています。グループホームはお寺裏の民家を活用し、



は、ウワの空で生きていくような気質なのが良かったのかもしれない」と釈さん。「過去を追わず、未来を願わず、今なすべきことをなせ」が釈尊の教え。終わった事は何でも忘れ、先の事も考えず、とりあえず目の前の事だけに集中する。これが自分のペースで多様な活動につながる気がするそうです。

コロナ禍の中で生きる迷いに対処するかを尋ねました。

「一年以上も新型コロナウイルス感染が社会を覆い、不安や恐れを抱きながら暮らす日々が続きます。そのため、私たちは心が委縮している状態です。心が委縮すると、どうしてもイライラしたり、攻撃的になったり、自己中心的になってしまっています。日本赤十字社が「感染症の三つの顔」という警告を発しています。第一の感染はウイルス・

「つみ庵」を運営。また阪急曽根駅前では、学びや文化の拠点をめざし「寺子屋・鍊心庵」を開いています。作家としては、宗教研究や仏教関係の著作が多く、お坊さんの説教由来と考えられている落語などの芸能も手掛けます。メディア活動では、6年以上続く「ニュースシブ5時」内の企画「悩み相談 護国寺」のほか、MBSラジオの番組審議委員も務めています。「幅広く活動できる源泉

病気の感染症。第二の感染は不安・恐れ。第三の感染は嫌悪・偏見・差別の感染症です。特に第三の感染症へ連鎖しないように気をつけなければなりません。そのためにも、つつい委縮しがちな心を、柔らかくしなやかにすることが大切です。芸術や文化などの文化的営み、神仏に手を合わせたり亡き人への思いをはせる営みを大事にしましょう。」

